

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	社会課題探究コース		訪問国	フィンランド	
学校名	静岡県立清水南高等学校	氏名	野上しずく	学年	1

1 目的・応募理由

私が留学しようと思ったのは、日本のいじめを失くすための取り組みをフィンランドで学ぶためだ。フィンランドの学校教育や教育システムから、日本のいじめ対策に活用できる学びを得られると考えた。それに加えて私の人間力を向上させたかったのもある。探究活動を行いながら留学する、言語の壁、文化の違い、一人だけの生活、障害だらけの環境に身を置くことで精神的に成長し、私という人間の中身を充実したものにできると思った。

2 研修内容等（普段の生活、休日の過ごし方、探究活動など）

私は語学学校に通わなかったため、朝の英語のレッスンを終えた後は、近くのスーパーに行ってみたり、一人で街の方に出かけてみたり、一日中勉強していたり、毎日自身で計画を立てて生活を送った。休日はホストファミリーが付き添ってくれるので、都市部へ連れて行ってくれたり、コテージで過ごしたり特別で楽しかった。日がたつにつれて生活にも慣れてきて、公共交通機関を利用して一人で遠出することも可能になった。最初は慣れない場所で怖さもあったが、時間がたてばもう長年住んでいるかのように恐れがなくなる。そしてマリメッコの店には必ずと言っていいほど日本人がいるので、困ったときや母国を感じたいときはそこへ行っていた。異国に滞在していると不安もあるが、その分その国をより知ることができる。探究活動はホストファミリーとともに行うことが多かった。学校訪問や大学訪問へは付き添ってくれたので、フィンランド語を話せず、英語も慣れない私には翻訳家のようにありがたかった。アンケート調査はオンラインで行えるようにし、インタビューは録音して聞きとれなかったところをカバーした。できないことが多い分、やり方を工夫してチャンスを無駄にしないよう努力した。学校に行ってみてわかったのだが、日本文化を好きな若者が結構いる。アニメの服を着ている子もいて、日本語を学んでいる子もいた。よく話していた友達は今度日本に行くと言って、よく質問してくれた。私が思っていた以上に日本は愛されているので、日本のお菓子やアニメのグッズなどをもっていくと喜ばれる。こんな遠い場所でも共通の話題ができることに感動し、世界はつながっているのだと改めて実感した。

学校の生徒が書いてくれたメッセージ→



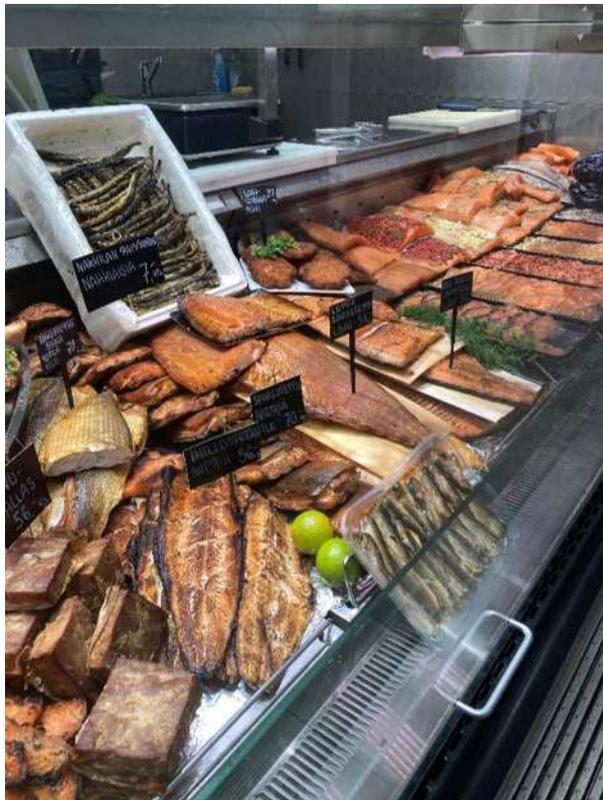
ヘルシンキ図書館に
←あった日本の漫画



3 感想等

私は留学してみて本当にたくさんのものを得たと思う。この経験は一生もので、高校一年生の私に与えた影響は計り知れない。些細なことさえ、16年間住んでいる環境で行うのと地球の反対側でするのは、全く違う。食事という日常なことさえ、まず手に持つものが違う。用いるのはナイフとフォーク、そして主食も米ではなく小麦とじゃがいも、量も普段の2倍。慣れないことだらけで戸惑い、肌も荒れて体にも変化が出た。近年はグローバル化といわれていて、確かに多くの人に英語は通じるし、マクドナルドもスターバックスもそこら中にある。しかし、実際に生活するとあらゆることが違うと気づく。百聞は一見に如かず、というように実際に生活してみないと気づかないことが数多くあった。私はこの違いこそ、留学の醍醐味だと思う。慣れない場所で生活して、人種の違う人達と流暢でない言語で話す、この経験は私を確実に強くした。今の私ならどんな場所でも適応でき、人や文化の違いを受け入れられると自信を持って言える。また異文化に触れることは、その国の文化を知るだけでなく、自国の文化を見つめ直すことにもつながった。フィンランドで憧れのシナモンロールや大好きなサケ料理を食べて、優しい人たちとふれあって、美しい街並みに見惚れてなお、最後には日本の文化の魅力を感じた。留学は何かしら自分を大きく変える経験となる。私自身、日本や海外に対する考え方が変わり、精神的にも大きく成長できた。この経験を糧にして、これからの挑戦に積極的に取り組んでいきたい。

フィンランドの屋台の鮭↓



ホストファミリーのコテージ周辺↓

